

# いしづち

愛媛労災病院広報紙第13巻第4号

（通巻第70号）

2014年10月5日発行

発行人：院長 宮内文久

理念：当院は働く人々のために、そして地域の人々のために信頼される医療を目指します

- 基本方針
1. インフォームドコンセントの実践
  2. 安全かつ良質な医療の提供
  3. 勤労者医療の推進



腹腔鏡内視鏡合同手術 ..... 2

外来紹介 ..... 3

「健康講座と実演会」開催しました ..... 3

診療日誌 ..... 4

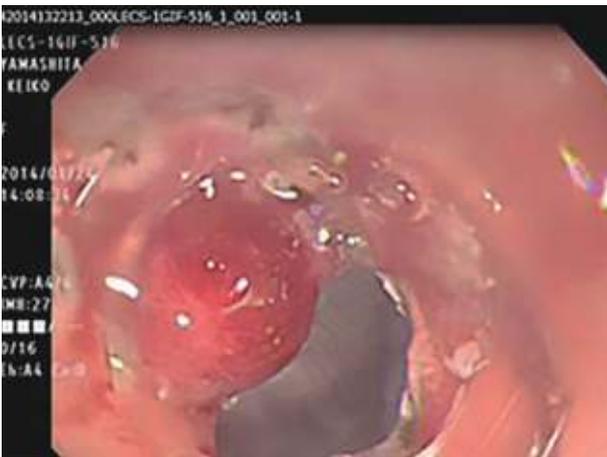
初めまして  
「がん化学療法看護認定看護師」です ..... 4

## 腹腔鏡内視鏡合同手術 (Laparoscopic and endoscopic cooperative surgery: LECS)

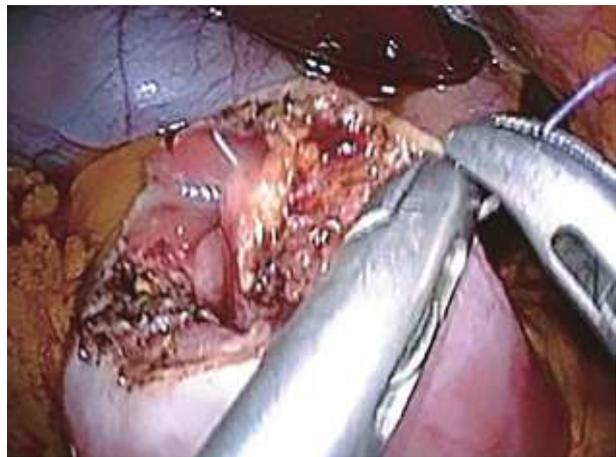
消化器外科部長 都志見 貴 明

最近では早期胃癌、大腸癌に対して内視鏡下粘膜下層剥離術 (Endoscopic submucosal dissection: ESD) が増えつつあります。それまでの内視鏡下粘膜切除術 (Endoscopic mucosal resection: EMR) では切除が難しかった2cm以上の粘膜癌や、粘膜下層にわずかに浸潤するもの(sm1浸潤)までにも適応が広がり、患者さんにとってはより侵襲の低い治療を受けることが可能となりました。これ以外のESDでは切除できない消化管癌は外科的切除の適応となります。しかし通常の癌ではなく、GISTやカルチノイドといった粘膜下腫瘍は治療方針が難しいことがあります。GISTはリンパ節転移を来すものは稀ですので、消化管癌のようなリンパ節郭清を伴った切除は必要ありません。一般的に5cm以下の胃GISTは局所切除でよいとされています。カルチノイドは10mm以下であれば内視鏡の切除、それ以上であれば外

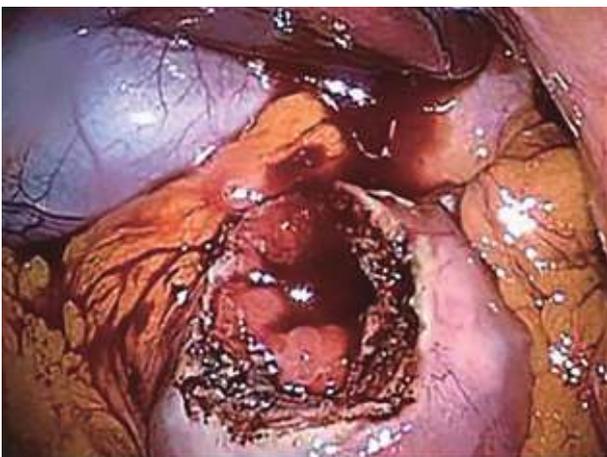
科的切除を推奨されています。胃・十二指腸領域腫瘍の外科的局所切除では多くの施設で腹腔鏡手術が導入されています。開腹手術に比べ美的にも優れており、疼痛も少なく低侵襲手術と考えられています。しかし腹腔鏡下局所切除の問題点は切除範囲の決定が難しい点にあります。消化管の外からでは腫瘍がどこに存在するか分からないし、腹腔鏡用鉗子で腫瘍を触っても繊細な手の感覚ほどの感触が伝わってこないのです。過剰な切除により機能障害を起こしたり、反対に不十分な切除で断端に腫瘍細胞の浸潤を認めたりすれば大問題です。この問題点を克服したのが腹腔鏡・内視鏡合同手術 (Laparoscopic and endoscopic cooperative surgery: LECS) です。消化管内側から内視鏡下に正確な切除範囲を決定し、その切開線にそって内視鏡下、腹腔鏡下に全層切除を行います。切除後の欠損孔は腹腔鏡下に縫合閉鎖を行います。症例は十二指腸カルチノイドに対し当院でLECSを行なった症例です。2014年4月の保険改定によりLECSの手技が腹腔鏡下胃局所切除の付加術式として算定されるようになりました。今後は当院でも胃・十二指腸領域の粘膜下腫瘍に対しLECSを増やしていく予定です。



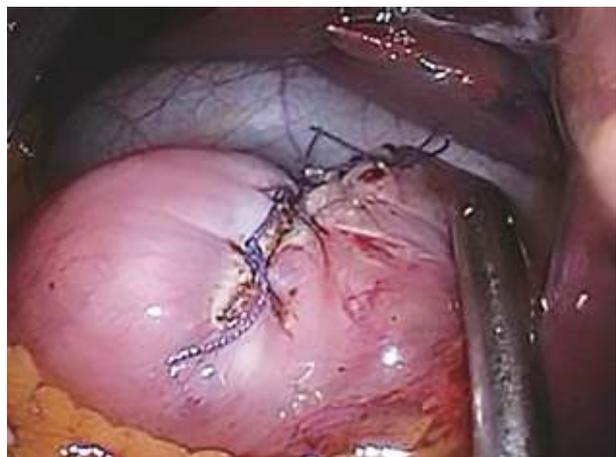
内視鏡下に十二指腸カルチノイド腫瘍周囲全層切除を施行した



腹腔鏡下に切除後欠損部を縫合した



全層局所切除が完了した



縫合閉鎖完了図

## 外来紹介

外来 泉 敦子

当院の外来には20診療科と、急患室、採血室、内視鏡室、血管造影室、外来化学療法室、透析室があります。外来は病院の中で患者様が最初に訪れる場所であり、第一印象が重要で、笑顔と優しさが求められます。初めて来院された患者様が不安なくスムーズに診察を受ける事ができること、また病棟との継続看護で情報を引き継ぎ、退院後も安心して治療を継続できるよう支援することを心がけて看護しています。近年人口の高齢化、生活習慣病の増加、在宅ケアニーズの増大など、医療を取り巻く環境の変化や、医療制度改革は外来診療に大きく影響しており、外来看護師に求められることも刻々と変わってきています。今後も患者様のニーズを見極め、日常生活の中で治療継続がサポートできるよう頑張っていきたいと思っております。

**【血管造影検査】** 心臓血管カテーテル検査や心筋梗塞等の血管内治療、ペースメーカーの植え込み術などを行っています。



心臓カテーテル検査

**【フットケア外来】** 糖尿病認定看護師を中心に午後15時～17時にフットケア外来を行なっています。



フットケア

**【内視鏡】** 胃カメラや大腸カメラの検査。内視鏡の手術、外科手術と内視鏡手術を合体させたLECSという最先端手術も実施しています。

**【外来化学療法室】** 化学療法を受ける在宅患者様の相談や指導を行ない、QOLの向上に努めています。

**【助産外来】** 週一回予約制で助産師による指導や診察で、妊娠中や産後の様々な相談にお応えしています。

## 「健康講座と実演会」開催しました

愛媛労災病院総務課 高橋 友佳里



「健康と福祉の増進」をテーマに、6月30日(月)に新居浜市沢津町の高津公民館で「健康講座と実演会」を開催しました。

池田宜孝外科部長と都志見貴明消化器外科部長による健康講座では、腹部大動脈瘤と胃がんを題材に、病気の兆候から手術の方法までをお集まりの皆様と勉強しました。実際の症例や手術については映像を交えつつ、実際に使用するステントグラフトや人工血管を手にとり見ていただきました。手術器具1つで160万円という話に、器具を持つ手が怖々となりつつも、皆さん熱心に観察されていました。

実演会では有馬聡中央リハビリテーション部長による「試してみよう！腰痛予防対策」を実施。実演会がお目当ての方も多く、日常動作での注意点のご紹介や5分でできる予防体操を皆様と一緒に行いました。

今後も定期的な開催を企画しており、直近の大きなイベントとして11月24日(月)に市民公開講座を開催いたします。詳細については、別紙ご案内をご覧ください。



## 診療日誌



外科医師 永瀬 隆

今年4月より愛媛労災病院外科に赴任しました永瀬隆と申します。平成22年に山口大学を卒業後、山口大学大学院器官病態外科(第1外科)に入局し、現在医師5年目になります。

卒業後は大学病院をはじめ、山口県内の病院に勤務していましたので、県外の勤務は初めてのこととなります。4月の新居浜は国領川の河川敷の桜がきれいで、病院からは瀬戸内海を望み、南は四国山地に面した、のどかな土地に来た印象でした。しかし新居浜の人々はとてもエネルギーがあつて、東予弁の勢いには最初戸惑いましたが、感情がストレートに伝わってくる親しみやすい方言だと思ひます。

現在は、当院外科の心臓血管外科専門医、消化器外科専門医それぞれのエキスパートの指導のもとに、外科一般から静脈瘤を中心に診療を行っております。近年は高齢で併存疾患を抱えた方の手術が多くなっていますが、当院の高齢化率は予想以上の進行でした。このようなハイリスクな患者さんの手術が行えるのも、手術室、ICU、北6病棟、栄養、リハビリ等のスタッフのサポートのおかげと感謝しております。

ここで下肢静脈瘤について少し紹介させていただきます。

きます。当科では静脈瘤の超音波検査による逆流の評価に加えて、今年度より単純CT検査による詳細な静脈の走行についての形態評価を行っております。下肢静脈瘤は必ずしも手術が必要でない良性疾患ですが、2011年1月よりレーザー血管内焼灼術が保険適用となり、手術を希望される患者さんが増えてきているのが実際のところ。最近ではメディアの影響もあり、下肢静脈留への過剰な不安や、治療への過剰な期待をもって受診される患者さんもおられます。当科では十分な説明のうえで、それぞれの患者さんの希望と病態に合わせた適切な治療を行うよう心掛けています。足の症状でお困りの方は、是非一度外科外来を受診していただければと思います。最後になりましたが、私は未だ修練の身であり、皆様にはご迷惑をかけることもあるかと思いますが、今後とも御支援・御協力の程よろしくお願ひいたします。



## 初めまして 「がん化学療法看護認定看護師」です

がん化学療法看護認定看護師 大沢 由香



がん化学療法看護認定看護師は、様々ながん治療を受ける患者さん・ご家族が、治療を選択する際の意思決定支援や、副作用の対処法の情報提供を行い、自宅での生活や、仕事と治療の両立など、がんサバイバーとして生活する患者さんが抱える問題を一緒に考えていきます。また院内では、がん化学療法に関する指導・相談役としての役割があります。

愛媛労災病院が、がん患者さんにとって頼れる病院であるために、患者さん・ご家族が安心して、自

分らしい生活を送りながら治療ができるお手伝いをしていきたいと思っています。そして、看護職にとっても相談できる認定看護師であるよう、自分の持つ知識・技術の提供は惜しみなく行い、皆で共にベストなケアを提供していきたいと思っています。まずは、がん相談支援や病棟ラウンドなどの取り組みを行い、院内外で認定看護師を身近に感じてもらえるようにしていきたいです。



！ 広報誌編集メンバー 委員長：池田外科部長 委員：木戸副院長、都志見医局長、河村看護副部長、日野看護部長、土肥看護部長補佐、大成薬剤師、小川作業療法士、！ ！ 正岡診療放射線技師、伊藤臨床検査技師、大西管理栄養士、清岡管理栄養士、山下総務課長、稲富庶務係長、曾我部連携室員、竹熊庶務係員